

コース名		科目名				対象学年		
個体の反応 病因と病態		薬物治療				4		
開講学期		科目責任者		副責任者		全体資料		
1・2 学期		岡本 安雄		楠 裕明		無		
授業到達目標								
1. 薬物（オピオイドを含む）の蓄積、耐性、タキフィラキシー、依存、習慣性や嗜癖を説明できる。 2. 各臓器系統（中枢・末梢神経、循環器、呼吸器、消化器、腎泌尿器、血液、内分泌等）に作用する薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 3. 抗微生物薬の薬理作用、適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 4. 抗腫瘍薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 5. 麻薬性鎮痛薬・鎮静薬の適応、有害事象、投与時の注意事項を説明できる。 6. 主な薬物の有害事象を概説できる。 7. 分子標的薬の薬理作用と有害事象を説明できる。 8. 漢方医学の特徴や、主な和漢薬（漢方薬）の適応、薬理作用を概説できる。								
授業計画								
回数	月日	曜日	時限	区分	担当者	所属	授業内容	コアカリ項目
1	4/ 4	木	7	講義	岡本安	薬理	アドレナリン作動薬、抗アドレナリン薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
2	4/ 6	土	2	講義	岡本安	薬理	コリン作動薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
3	4/ 6	土	3	講義	岡本安	薬理	抗コリン薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
4	4/ 9	火	7	講義	岡本安	薬理	神経筋接合部遮断薬（末梢性筋弛緩薬）	F-2-8)-4, F-2-8)-8
5	4/18	木	7	講義	竹之内	薬理	高血圧治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
6	4/20	土	2	講義	竹之内	薬理	狭心症治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
7	4/20	土	3	講義	竹之内	薬理	利尿薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
8	4/26	金	7	講義	岡本安	薬理	抗不整脈薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
9	5/ 7	火	7	講義	岡本安	薬理	心不全治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
10	5/11	土	2	講義	岡本安	薬理	抗菌薬総論	F-2-8)-5, F-2-8)-8
11	5/11	土	3	講義	岡本安	薬理	細胞壁合成を阻害する抗菌薬	F-2-8)-5, F-2-8)-8
12	5/13	月	7	講義	岡本安	薬理	タンパク質合成・核酸合成を阻害する抗菌薬、抗結核薬	F-2-8)-5, F-2-8)-8
13	5/23	木	7	講義	岡本安	薬理	抗ウイルス薬、抗真菌薬	F-2-8)-5, F-2-8)-8
14	5/25	土	2	講義	岡本安	薬理	抗悪性腫瘍薬	F-2-8)-6, F-2-8)-8 F-2-8)-12
15	5/25	土	3	講義	岡本安	薬理	分子標的薬	F-2-8)-6, F-2-8)-8 F-2-8)-12
16	5/28	火	7	講義	岡本安	薬理	消化性潰瘍治療薬・制吐薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
17	6/ 6	木	7	講義	岡本安	薬理	麻薬性鎮痛薬	F-2-8)-1, F-2-8)-7
18	6/ 8	土	2	講義	坪井	薬理	非ステロイド性抗炎症薬	F-2-8)-4, F-2-8)-7 F-2-8)-8
19	6/ 8	土	3	講義	坪井	薬理	ステロイド薬、甲状腺疾患治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
20	6/13	木	7	講義	岡本安	薬理	局所麻酔薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
21	6/18	火	7	講義	岡本安	薬理	全身麻酔薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
22	6/22	土	2	講義	坪井	薬理	免疫抑制薬、関節リウマチ治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8 F-2-8)-12

23	6/22	土	3	講義	坪井	薬理	抗アレルギー薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
24	7/23	火	2	講義	岡本安	薬理	抗精神病薬（統合失調症治療薬）	F-2-8)-4, F-2-8)-8
25	7/23	火	3	講義	岡本安	薬理	抗うつ薬・気分安定薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
26	7/24	水	2	講義	岡本安	薬理	抗不安薬・睡眠薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
27	7/24	水	3	講義	岡本安	薬理	抗てんかん薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
28	7/25	木	2	講義	楠	総合臨床	漢方の歴史と基本理論	F-2-8), F-2-8)-8 F-2-8)-13
29	7/25	木	3	講義	楠	総合臨床	生薬と方剤について、漢方医学の臨床	F-2-8), F-2-8)-8 F-2-8)-13
30	7/26	金	2	講義	岡本安	薬理	パーキンソン病治療薬、抗認知症薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
31	7/26	金	3	講義	岡本安	薬理	薬物依存	F-2-8)-1, F-2-8)-4 F-2-8)-7
32	7/27	土	2	講義	坪井	薬理	気管支拡張薬・気管支喘息治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
33	7/27	土	3	講義	坪井	薬理	鎮咳薬・去痰薬・呼吸機能改善薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
34	9/ 4	水	7	講義	岡本安	薬理	消化管運動機能改善薬・腸疾患治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
35	9/ 7	土	2	講義	岡本安	薬理	止血薬・抗血栓薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
36	9/ 7	土	3	講義	岡本安	薬理	造血薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
37	9/14	土	2	講義	竹之内	薬理	糖尿病治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8
38	9/14	土	3	講義	坪井	薬理	脂質異常症治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8 F-2-8)-12
39	9/18	水	7	講義	岡本安	薬理	泌尿器・生殖器用剤	F-2-8)-4, F-2-8)-8
40	9/21	土	2	講義	坪井	薬理	骨粗鬆症治療薬、痛風・高尿酸血症治療薬	F-2-8)-4, F-2-8)-8 F-2-8)-12
41	9/21	土	3	講義	岡本安	薬理	女性ホルモン製剤・子宮用剤	F-2-8)-4, F-2-8)-8

#### 評価方法

[小テスト]50%（記述式及び多肢選択式問題により各授業の理解を確認する。）  
 [出席状況（受講態度）]50%（評点は50点×（出席回数）/41の式で算出する（ただし小数点以下は切り捨て）。）  
 [評価方法]多肢選択試験、論述・記述試験、小テスト、出席・受講態度評価  
 [備考]講義末・期末試験は行わないが、出席点と小テストの得点の合計点が60点未満の場合、補充試験を行う。41回の授業のうち14回以上欠席した場合、欠席オーバーとなり、補充試験の受験資格を失う。小テストを行うときは事前に試験範囲など知らせる。

#### 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックについて

小テストは採点后返却する。

#### 教科書

お持ちの薬理学関連図書で構わない。配布プリントあり。

#### 参考書

（特になし）

#### 準備学習（予習・復習等）

予習：講義前に全体資料を確認し、関係する講義科目（基礎・臨床）の復習を行い、該当する範囲の薬理学のテキストを読んでおく（30分程）。  
 復習：クエスチョンバンクの問題により各講義内容の理解度を適宜チェックし、不得意分野については自主的に追加学習する（30分程）。

#### 講義についての注意事項

配布プリントを中心に、PCスライドおよび板書によって進められる講義に出席し、その内容を理解する。講義の終了後、不明な点は教員に対して積極的に質問する。

昨年度からの変更点・改善項目

2019年度から「薬物治療」は2学年カリキュラムに移行されるが、平成29・30年度に2学年及び4学年で開講した際に単位未修得であった者を対象に今年度開講する。なお、評価方法の評価基準を変更した。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連について

臨床医学、特に内科系の治療方法の学修後に薬理学的な学問を体系立てて学ぶ。直後に学修する臨床医学実習の基本になる。

ナンバリング

BLPC402